



J.Fukuda

THE OSAKA HAI

第69回 大阪杯 (GI)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
 本 賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円
 付加賞 3,234,000円 924,000円 462,000円



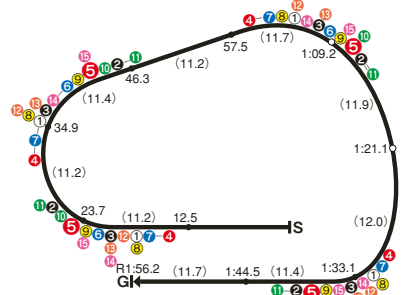
レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 58⁺、牝馬2⁺減

2025.4.6 阪神 晴・良 芝2000⁺ 国際 (指定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600 ⁺)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	5	ベラジオオペラ	牡	5	58	横山和生	R1:56.2	4-4-3-3	34.1	508(-4)	5.1②	上村洋行(栗東)	118
2	13	ロードデルレイ	牡	5	58	西村淳也	1	8-9-8-8	33.8	486(-4)	6.5④	中内田充正(栗東)	116
3	7	ヨーホーレイク	牡	7	58	岩田望来	1	14-14-14-14	33.5	526(-8)	13.6⑨	友道康夫(栗東)	114
4	4	エコヴァルツ	牡	4	58	M.デム・ロ	ハナ	8-8-10-10	33.8	492(+4)	32.3⑩	牧浦充徳(栗東)	114
5	2	ホウオウビスケツ	牡	5	58	岩田康誠	クビ	2-2-2-2	34.8	502(-2)	9.1⑤	奥村 武(美浦)	113
6	6	ジャスティンパレス	牡	6	58	鮫島克駿	クビ	7-7-7-6	34.2	474(+6)	10.4⑥	杉山晴紀(栗東)	113
7	10	シックスペンス	牡	4	58	横山武史	ハナ	3-3-3-3	34.6	500(-12)	4.8①	国枝 栄(美浦)	113
8	1	ボルドグワッシュ	牡	6	58	吉田隼人	1¼	12-11-11-12	34.0	510(+4)	48.1⑫	宮本 博(栗東)	111
9	8	コスモキュランダ	牡	4	58	丹内祐次	同着	5-6-5-5	34.6	504(-6)	20.1⑩	加藤士津八(美浦)	111
10	4	ソールオリエンス	牡	5	58	松山弘平	½	15-15-15-15	33.5	466(-6)	38.0⑪	手塚貴久(美浦)	110
11	3	ラヴェル	牝	5	56	北村友一	ハナ	8-9-8-8	34.4	478(-2)	112.8⑬	矢作芳人(栗東)	106
12	8	カラテ	牡	9	58	和田竜二	¾	12-11-13-12	34.2	542(+10)	316.5⑮	東田明士(栗東)	109
13	12	ステレンボッシュ	牝	4	56	J.モレイラ	1½	11-11-11-10	34.5	460(-4)	5.2③	国枝 栄(美浦)	102
14	11	デシエルト	牡	6	58	池添謙一	2½	1-1-1-1	36.6	540(+4)	12.2⑦	安田翔伍(栗東)	102
15	15	アルナシーム	牡	6	58	横山典弘	4	5-4-5-6	36.1	446(-2)	178.4⑭	橋口慎介(栗東)	95

単勝⑤510円(2⁺%) 複勝⑤180円(1⁺%) ⑬260円(5⁺%) ⑬340円(7⁺%) 枠連③-⑦650円(2⁺%)
 馬連⑤-⑬1,720円(5⁺%) ワイド⑤-⑬730円(5⁺%) ⑤-⑦990円(12⁺%) ⑦-⑬1,460円(18⁺%)
 馬単⑤-⑬3,300円(8⁺%) 3連複⑤-⑦-⑬6,910円(19⁺%) 3連単⑤-⑬-⑦30,910円(77⁺%)
 5重勝③①③⑥①1,666,720円(299票) 対象競走: 阪神9R/中山10R/阪神10R/中山11R/阪神11R



通過タイム: 600⁺ 800⁺ 1000⁺
 34.9 - 46.3 - 57.5 上り: 800⁺ 600⁺
 47.0 - 35.1

アラカルト

- ・横山和生騎手はベラジオオペラで制した24年に続く大阪杯2勝目。JRA重賞は本年初勝利、通算18勝目
- ・上村洋行調教師はベラジオオペラで制した24年に続く大阪杯2勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算8勝目
- ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算85勝目
- ・GI昇格以前を含めて、ベラジオオペラは本競走史上初の連覇達成
- ・勝ちタイム1:56.2は23年にジャックドールが記録した1:57.4を更新するレース記録および18年にストロングタイタンが記録した1:57.2を更新するコースレコード
- ・枠連650円は同式別における本競走の最低払戻金額

ベラジオオペラ Bellagio Opera

牡 鹿毛 2020.4.7生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・林田祥来氏 栗東・上村洋行厩舎
馬名意味・冠名+歌劇

アイドリームドアドリームUSA系 F4→

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サルトガデュUSA
エアルーティーン 栗毛 2012	ハービンジャーGB 鹿毛 2006	Dansili Penang Pearl
	エアマグダラ 栗毛 2003	サンデーサイレンスUSA エアデジャヴー

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

いよいよ本格化してきたと感じました

去年とは臨戦過程が異なる中での連覇で、馬自身がいよいよ本格化してきたように感じました。上村厩舎のスタッフ、合間の調整を担ってくれてるチャンピオンヒルズさんのお陰です。重圧を微塵も感じさせず完璧なエスコートをしてくれた横山和生騎手の手腕にも感謝申し上げます。林田オーナーを含めた多くの方々と喜びを分かち合えて最高の気分を味わえました。

N.Inaba



1年前に戴冠を果たした後、宝塚記念でも3着に食い込んだ本馬だが、猛暑に直面した夏場、夏負けにかかって体調を崩すアクシデントに見舞われたその影響も尾を引き、復帰戦の秋の天皇賞はもうひとつ精彩を欠いて6着、有馬記念は微妙に距離が長かった印象で4着に敗れたものの、この日は従来のコースレコード(一分57秒)を一挙に1秒も更新。横一線の接戦に競り勝った昨年から一段と進化した雄姿を印象付け、王位に再び咲いた。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 詳細はP.8参照

母エアルーティーン

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央5戦1勝

リトルマンマミーア(17 牝父エイシフラッシュ)中央6戦0勝、地方49戦2勝
セレンティーアスク(18 牝父モーリス)中央3戦0勝、地方12戦0勝
ビックマハロ(19 牝父ロードカナロア)中央3戦0勝、地方21戦1勝

ベラジオオペラ 本馬(20 牝父ロードカナロア)中央12戦6勝(大坂杯^{G1} 2回、スプリングS^{GII}、チャレンジC^{GIII}、セントポーリア賞、京都記念^{GII} 2着、宝塚記念^{G1} 3着) 獲得総賞金823,702,000円

エンハンス(22 牝父ジャスタウェイ)中央1戦0勝 ④

エアビーアゲイル(23 牝父シスキンUSA)

※21、24(不受胎)

祖母エアマグダラ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央4勝(かもめ島特別)

エアアンセム(11 牝父シンボリクリスエスUSA)中央5勝(函館記念^{GIII}、ホープフルS^{OP}、スピカS、京崎特別、都大路S^{OP} 2着、福島記念^{GIII} 3着)

エアルーティーン(12 前出)

サトノヘリオス(19 騊父エビファネイア)中央2勝(エリカ賞、スプリングS^{GII} 3着、ラジオNIKKEI賞^{GIII} 3着)

曾祖母エアデジャヴー

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央2勝(クイーンS^{GIII}、オークス^{G1} 2着、クイーンC^{GIII} 2着、桜花賞^{G1} 3着、秋華賞^{G1} 3着)、地方0勝、15年死亡

エアシェイディ(01 牝父サンデーサイレンスUSA)中央7勝(アメリカジョッキークラブC^{JuV}II、キャピタルS^{OP}、白富土S^{OP}、福島テレビオープン^{OP}、アメリカジョッキークラブC^{GII} 2着2回、日経賞^{GII} 2着、中山記念^{GII} 2着、中山金杯^{GIII} 2着、東京新聞杯^{GIII} 2着、有馬記念^{G1} 3着2回)

エアメサイア(02 牝父サンデーサイレンスUSA)中央4勝(秋華賞^{G1}、ローズS^{GII}、オークス^{G1} 2着、ヴィクトリアマイル^{G1} 2着、阪神牝馬S^{GII} 2着)、**エアスピネル**(デイリー杯2歳S^{GII}、富士S^{GIII}、京都金杯^{GIII})、**エアウィンザー**(チャレンジC^{GIII})の母、**エアロノア** ④(六甲S・L、リゲルS・L、京都金杯^{GIII} 2着)の祖母

エアマグダラ(03 前出)

エアシンフォニー(15 牝父ルーラーシップ)中央1勝、**ティラトール** ④(フエアリーS^{GIII} 2着、クロッカスS・L 2着)の母

一枚上の速さと強さで王位に再び咲き

レコード勝ちを収めた前走の中山記念まで6戦5勝、唯一の敗戦はダービーの9着とまだ底を見せていない4歳馬シックスペンスが1番人気に支持された大坂杯だが、その単勝オッズは4・8倍。4頭のG1ウイナーをはじめ、多彩な実力馬が一堂に会した春の距離王決定戦は、GIに昇格した2017年以降では屈指の混戦ムードに包まれた。しかし終わってみれば2番人気の評価に甘んじていたベラジオオペラが、一枚上の「速さと強さ」を見せて付けて快勝。GI昇格前も含め、レース史上初となる連覇を達成した。非凡なスピードの半面、折り合い難も同居するデシエルトがどう逃げる

かが焦点のひとつだったレース。出遅れたスタートからジンワリと巻き返し、1コーナーで先手を奪った同馬は向正面でスイッチが入ってしまい、後続を離してハイラップの逃げを打つ。シックスペンスは3番手につけ、ベラジオオペラの横山和生騎手は直後のインを追走。3番人気に支持された昨年の桜花賞馬ステレンボッシュは、後方3、4番手で末脚勝負に構えた。

前半1000mの通過が57秒5と、オーバーペースで飛ばしたデシエルトの脚勢は4コーナーで鈍り、後続が接近。直線に向くと2番手のホウオウビスケッツが早めに抜け出し、押し切りを狙う。対して横山騎手は冷静にひと呼吸置いてから、その外へ持ち出して

スパート。しっかりと伸びたベラジオオペラが坂上で先頭に立ち、中国から追い込んだロードレレイの強襲も寄せ付けずにゴールへ飛び込んだ。

1年前に戴冠を果たした後、宝塚記念でも3着に食い込んだ本馬だが、猛暑に直面した夏場、夏負けにかかって体調を崩すアクシデントに見舞われたその影響も尾を引き、復帰戦の秋の天皇賞はもうひとつ精彩を欠いて6着、有馬記念は微妙に距離が長かった印象で4着に敗れたものの、この日は従来のコースレコード(一分57秒)を一挙に1秒も更新。横一線の接戦に競り勝った昨年から一段と進化した雄姿を印象付け、王位に再び咲いた。